

法政大学国際文化学部企画: **いま宮澤芳重を考える**

法政大学国際文化学部では、昨年度から留学生を主対象に、長野県飯田・下伊那地方で夏休みの「S J国内研修」(SJ: Study Japan)を実施している。日本を東京だけからみるのではなく、多面的・重層的に眺める目を養うことが目的である。

その飯田・下伊那出身のユニークな人物に、生田村(現、松川町)生まれの宮澤芳重(みやざわ・よしじゅう; 1898年~1970年)がいる。

貧しさのため進学できなかった宮澤は、郷土である飯田に郷立大学をつくる夢を抱き、東京でニコヨンなどの肉体労働をして稼いだお金の大半を、飯田市立図書館や県立飯田高校に送金した。志半ばにして亡くなったが、没後、地元の人々は彼を讃える「芳重地蔵」を建て、またNHKは番組「地蔵になった男」(1973年)を制作して、その清貧の生涯を振り返った。

それから40年。飯田でフィールドスタディをする全国の大学をネットワーク化し、「学輪 IIDA」というユニークな組織が立ち上がりつつあるが、かつて飯田に大学をつくろうと奔走した宮澤芳重のことは、地元の飯田・下伊那でも忘れられつつある。

また一方では、宮澤の寄付金などで購入されたもと飯田高校の天体望遠鏡を保管し、学校協の「芳重地蔵」を大事にしてきた松川東小学校が、近年の児童数の減少により2014年度末で閉校、2015年度から松川中央小学校に統合する方針も決定した(裏面新聞記事参照)。

そうした時期に、40年前のこのNHKの番組を観賞し、ゆかりの方々のお話を伺いながら、宮澤芳重の生き方や目指したものを再度振り返ることに、現在の意義がある。

「S J国内研修」を準備するなかで関係がうまれた在京飯田高校同窓会の有志の方々と、協力しながら実施していきたい。

・日時:2013年7月6日(土) 15:00~18:00

・場所:法政大学 市ヶ谷キャンパス(市ヶ谷・飯田橋駅から徒歩約10分)
ボアソナードタワー6階 0610教室

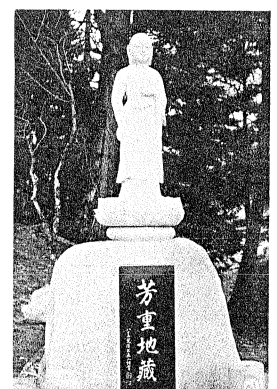
・テーマ:いま宮澤芳重を考える

・内容:

①NHK「地蔵になった男」(1973年;約30分)

②関係者による座談会(ご出席予定者/敬称略)

- ・下澤勝井(評伝『人間 宮澤芳重—その反俗の生涯』共同執筆者)
- ・小塩立吉(小塩完次記念資料館。叔父の小塩完次が宮澤芳重と親交あり)
- ・山崎範子(谷根千工房。地域雑誌『谷中根津千駄木』発行人。宮澤芳重氏について41号に執筆)



- ・主催:法政大学国際文化学部
- ・連絡先:法政大学国際文化学部事務(03-3264-9345、jkokusai@hosei.ac.jp)
- ・参加無料、事前連絡不要

松川東小

15年4月統合で合意

検討委

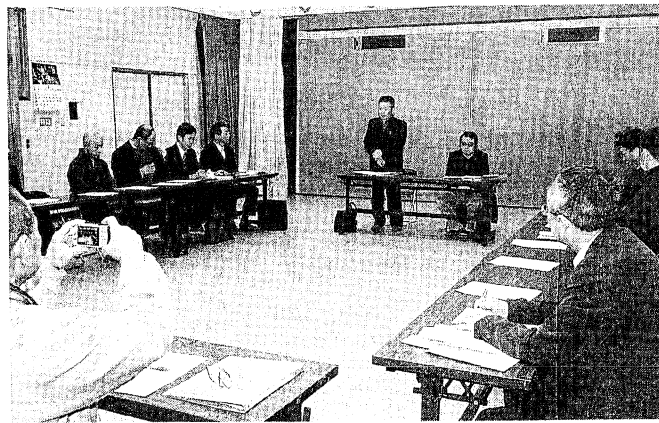
町教委に近く提言

松川町松川東小学校の松川中央小学校への統合について話し合う統合検討委員会が1日夜、生東会館で開かれ、2015（平成27）年4月統合とする町教育委員会の方針に合意した。次回会合で提言案をまとめ、町教委に提言する。

統合時期について当初、14年と15年の2案あったが、町教委は、在校生や卒業生、地域の閉校、同4月の統合住民を含め「東小の思い出を深く胸に刻みな

から閉校するには一定の時間が必要」と指摘。2年後の15年3月の校長らで構成し、この日の会合には20人が出席。事前に話し合いの場を持った小委員会

会合後、高坂敏昭町教育長は「統合に向けた課題はまだまだあるが、時間をかけて検討していく。東小の歴史や伝統、東小に寄せる地域の思いが中央小の教育活動に生かされる場づくりも考えていきたい」と話した。次回



統合に向けた検討委員会

会合は今月中旬に開く予定。討議が統合の時期などについて本年度内をめぐり、同校などに町教委に対し提

言。町教委は提言をもとに統合計画案を策定し、パブリックコメントを募集するなどして統合計画を決定する。その後、統合準備委員会（仮称）を立ち上げて計画を進める予定。東小の児童数は本年度が16人、14年度は9人、15年度は8人に減る見通し。